



2022年9月発行

## バスでおでかけ交流会に参加して

7月28日(水)すずらん会バス旅行が開催され、娘と2人親子で参加しました。

実はこの旅行は一本の電話から始まりました。私は約40年前に行先である大谷資料館を訪れた事があり、又再訪出来たらとかねてから思っていたのですが、娘を一人家で留守番させられないと欠席のつもりでいた所、会長さんからの電話で、当日キャンセルでもOKだから親子で参加すればと。幸い、日頃のヒステリーとフラッシュバックも起こる事無く当日、のぞむ事が出来ました。

道の駅しもつけでトイレ休憩後大谷資料館が近づくにつれ、大谷石を切り取ったあとであろう岩肌がそそり立つ山あい眺めて、西部劇のように出てくるグランドキャニオンのようだと胸が高鳴りました。さて、待望の資料館到着。長い階段を下りていくと、そこは冷感漂う静寂の世界。まるで映画ロケ地のセットのよう。色とりどりのライトに照らされて、40年前より遥かにスケールアップされた幻想的な空間が目の前に広がっていました。

私独り、単純に感動にひたっている一方、娘はどうかという、夏休みという事もあって、小学生の団体やファミリーの集団がかなりいて、やはり人目が気になったよう。子供の声や様々な目線が気になると、ちらほら愚痴が……。そんな中でも会長さんが色々気を使ってくださり、親子揃っての写真を多数撮影して下さいました。

その後、ろまんちっく村で昼食を取り、お土産を買って無事帰途につく事が出来ましたが、数日後、夕食後のデザートを食べながら娘がぼそと言った一言。「このアイスクリームの表面、大谷石に似ているね」「寒かったけど幻想的で凄かったね」どうやら彼女の胸の中には印象的で美しい思い出に変わりつつあるようです。

お陰様でちょっと時間はかかったけど親子で感動を分かち合う事が出来ました。このような機会を与えて下さり、家族会の皆様に深く感謝いたします。

ありがとうございました。

M・O

## 大谷資料館

コロナの猛威再びという時期でしたが、大谷資料館に行って来ました。バス席には一人ずつゆったりと座って、家族会と通所生のバス2台で行きました。

大谷石を切り出した跡の巨大空間です。入口から石段を一段一段降りると、少しずつ少しずつ涼しくなっていきます。照明もわずかで薄暗く、別の世界に入っていく感じです。

上から水滴がポツリと落ちてきます。石の壁もしっとりし、足元は湿っているので、滑らないよう気を付けて歩きます。中は涼しく春のコートを着て丁度良い位です。途中、花道家の假屋崎省吾先生の作品に出会いました。幻想的な世界にピッタリの作品でした。石段を上ったり下りたり30分位で見学は終了しました。

石段を上がり出口に向かうと、現世に戻った感じで、暑い暑い世界にもどりました。

M・O

## 輝いて生きなくてもいい

お笑い芸人で、ワイングラスを片手に「ルネッサンス」と叫ぶネタで人気になった「髭男爵」の山田ルイ53世のお話です。

小学校の成績は優秀で、サッカーも勉強も得意だったが、中学2年のとき、登校中に大便を漏らした。恥ずかしさで不登校になり、20歳まで自宅に引きこもった。罪悪感や孤独感を抱えながら家から出られなかった。6年間引きこもり、必死に勉強して国立大学に進学、学園祭で漫才をやったのを機にお笑い芸人を目指した。引きこもりの時間は無駄だったと断言する。修学旅行も行きたかった。もったいないことをしたと後悔している。

夢がなくてもいい、キラキラ輝いて生きなくてもいい。自分を反面教師に、子どもたちには自分のような経験はさせたくない、長女には登校前「うんこしたか？」と確認しているそうです。

H・O

問い合わせ/連絡先: 茨城県古河市新久田 271-1

福祉の森会館(特定非営利活動法人ふれあい内)

☎/fax: 0280-48-5878 e-mail: info@fureai-net.org